

平成 21 年度 決算 に 係 る

定 期 監 査 調 査 書
決 算 審 査

平成 22 年 4 月

農林水産部農林総合研究所
農業試験場

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
	(3) 決算審査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1
3	組織及び業務調べ	1
4	職員の定員、現員調べ	1
5	役付職員の調べ	1
6	主な事業に関する調べ	2
7	決算調書（総括表）	6
8	事業別実施状況調べ	7
9	予備費の充用調べ	8
10	繰越関係調べ	8
	(1) 継続費通次繰越調べ	
	(2) 繰越明許費調べ	
	(3) 事故繰越調べ	
11	収入証紙取扱額調べ	9
12	収入事務処理状況調べ	9
	(1) 分担金及び負担金	
	(2) 使用料	
	(3) 手数料	
	(4) 財産収入	
	(5) 寄付金	
	(6) 諸収入	
13	税外収入未済額調べ	10
14	未収金回収促進のための取り組み状況調べ	10
15	税外収入不納欠損額調べ	10
16	債務負担行為の状況調べ	11
17	負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ	12
	(1) 負担金	
	(2) 補助金	
	(2-2) 補助金（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
	(3) 交付金	
	(4) 委託料	
	(4-2) 委託料（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	
18	工事請負費調べ	14
18-2	工事請負費調べ（他課から予算の配当替えを受けて執行したもの）	14
19	財産に関する調べ	15
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の受払状況	
	(3) 基金	
	(4) 債権	
20	財産の貸付及び使用許可調べ	20
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品（1品の取得価格が100万円以上のもの）	
21	借受不動産明細調べ	21

22	職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ	21
	(1) 職員住宅	
	(2) 職員駐車場	
23	自動車（二輪を除く）の管理状況調べ	22
24	寄附物件の受納状況調べ	22
25	備品の処分状況調べ	22
26	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	22
27	貸付金等状況調べ	22
	(1) 総括表	
	(2) 償還状況	
28	事業別予算執行状況調べ	23
29	農業機械の管理状況	25
30	生産物（品）に関する調べ	26
31	試験研究調査事業別実施状況調べ	27
○	意見、要望等	41

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項 該当なし

(2) 監査意見 該当なし

(3) 決算審査意見 該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況 該当なし

3 組織及び業務調べ

課名	係（担当）名	課の主な所掌事務
農業試験場	作物研究室	(1) 主要農作物の育種及び栽培に関すること (2) 主要農作物の原種及び原原種に関すること (3) 農業経営技術の改善に関すること (4) 水田機能の維持・保全に関すること (5) 農業機械化に関すること
	環境研究室	(6) 土壌肥料及び土壌保全に関すること (7) 主要農作物の病害虫に関すること (8) 土壌、肥料等の分析に関すること
	有機・特別栽培研究室	(9) 有機・特別栽培の生産技術に関すること

4 職員の定員、現員調べ (平成22年4月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	22.4.1 現在	21.4.1 現在	22.4.1 現在	21.4.1 現在	22.4.1 現在	21.4.1 現在	22.4.1 現在	21.4.1 現在	
定員	0	0	17	17	9	9	26	26	
現員	0	0	17 (5)	17 (5)	9	9	26 (5)	26 (5)	病害虫防除所兼務
過不足(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	
臨時職員	0	0	0	0	0	0	0	0	
非常勤職員	1	1	0	0	6	8	7	9	農業技術員6名 事務補助1名

5 役付職員の調べ (平成22年4月1日現在)

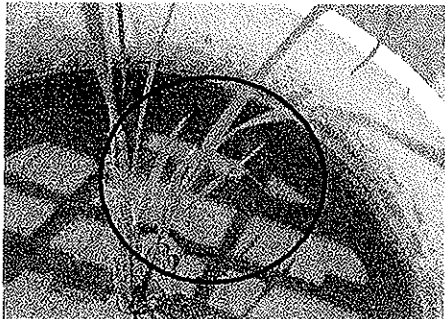
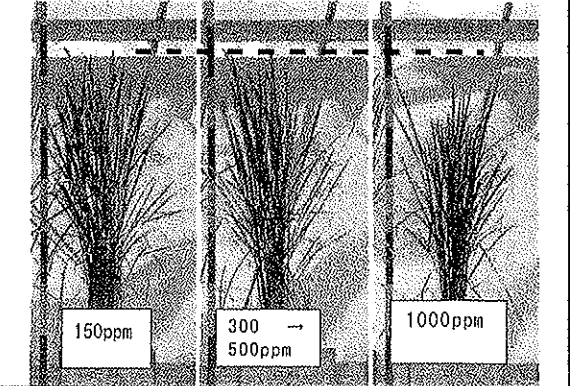
職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	(兼) 沢田義久	1	0	(病害虫防除所)
作物研究室長	松田 悟	0	0	
環境研究室長	(兼) 坂東 悟	1	0	通算8年0月 (病害虫防除所)
有機・特別栽培研究室長	熊谷 均	2	0	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>自立できる水田農業の収益性向上を支える技術開発事業</p> <p>決算（見込）額 3,060千円 （財源内訳） 一般財源 3,060千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 水田農業における担い手の経営安定・発展を図るためには、稲作及び転作両面での収益性向上が必要である。 このため、転作における新規作物の選定及び生産安定技術、稲作における多数の水田ほ場を効率よく管理できる技術を確立する。</p> <p>（イ）事業の実施状況</p> <p>1) 転作田での収益性向上技術の開発</p> <p>(1) 新規作物の探索 ・ハトムギについて、「あきしずく」「九州3号」等を供試し、本県に適する品種を検討するとともに、緩効性肥料（窒素成分が緩やかに発現する肥料）を用いた施肥方法等について検討した。</p> <p>(2) 排水性等改善技術の確立 ・転作田において水を通しにくい土層を壊し排水性を良くして白ネギ等を栽培した場合の跡作水稻への影響を検証した。</p> <p>2) 稲作の生産性向上技術の開発</p> <p>(1) ほ場管理の省力化技術の開発 ・簡易な給水装置を用いた水管理の省力化を現地で実証した。</p> <p>(2) 多数ほ場管理に適した収量・品質高位化技術の確立 ・稲の生育状況から最適な肥培管理を行うための生育診断技術を検証した。</p> <p>3) 経営への導入に向けた判断材料の整備</p> <p>(1) 新規作物導入のための経営判断指標策定 ・ハトムギの現地栽培事例を踏まえて、その収益性を明らかにした。</p> <p>(2) 開発技術の経営的評価 ・排水性改善に関わる技術を導入する場合等の費用対効果を検証した。</p> <p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 開発技術の効果を実証することにウェイトを置きながら、成果の受け手となる地域・生産組織と連携して現地試験に取り組んだ。</p> <p>ウ 成果</p> <p>1) 転作新規作物の選定及び転作田の排水改善技術の開発 ・ハトムギの適品種として「あきしずく」「九州3号」が、葉枯病に強く多収性があり有望と認めるとともに、その施肥では緩効性肥料の効果が高いことを明らかにした。 ・転作田において広幅心土破砕機（パイプローター）を用いて排水対策を行い白ネギ作付け後に水稻を作付けする場合、漏水対策等を実施する必要があるものの、通常の作業性等に支障がないことを明らかにした。</p> <p>2) 稲作における効率的なほ場管理技術の開発 ・安価で簡易な”水田用無人給水装置”や水稻の生育診断技術を現地ほ場において実証し、施肥判断や省力的な水管理への適応性を確認できた。</p> <p>エ 課題 大豆の連作障害回避技術の開発については、連作障害が十分に発現せず土壌管理効果等を検証することができなかった。</p>	

6 主な事業に関する調べ

事業名	概	要
<p>鳥取県型地下灌漑システムの確立</p> <p>決算（見込）額 371千円 （財源内訳） 一般財源 195千円 その他 176千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 水稲及び転作作物の高位安定生産を図るためには、水管理に起因する水稲の品質低下・機械作業性の低下あるいは転作作物の湿害回避等水田の灌排水を総合的に改善する必要がある。 このため、県内の暗渠施設の普及状況に対応した（既存の暗渠を利用）排水機能を併せもつ地下から灌漑する技術（鳥取県型地下灌漑システム）を確立する。</p> <p>（イ）事業の実施状況</p> <p>1）水稲栽培における地下灌漑法の確立 (1)独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所・株式会社パディ研究所で新たに開発された地下灌漑方式であるFOEAS（フォアス：Farm-Oriented Enhancing Aquatic-System）の現地適応性について検討した。 (2)既存の暗渠を利用した鳥取県型の地下灌漑システムにおいて、地下からの灌漑が水稲の生育・収量に及ぼす影響や機械作業性に与える影響について検討した。</p> <p>2）大豆栽培における地下灌漑法の確立 ・鳥取県型の地下灌漑システムにおいて、地下からの灌漑が大豆の生育・収量等に及ぼす影響やほ場の給排水性に与える影響について検討した。</p> <p>3）地下灌漑法の経済性評価 ・鳥取県型地下灌漑システムについて、導入コスト及び導入による効果の経済性について検討した。</p> <p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 事業期間を通じた試験結果をもとに開発技術の経済性評価を行った。</p> <p>ウ 成果 ・FOEASを利用した水稲栽培試験で収穫時の機械作業性の向上効果、灌漑用水の効率的な利用効果及び水稲栽培時の地下灌漑方法を明らかにし、現地への適応性を確認した。 ・鳥取県型地下灌漑システムについてもFOEAS同様水稲栽培時の機械作業性の向上効果を確認し、水稲栽培時の地下灌漑方法を明らかにした。 ・また、水田転換畑においては排水性能の向上効果とともに大豆に対する地下灌漑による収量向上効果を確認した。 ・鳥取県型地下灌漑システムの導入コスト、導入効果から費用対効果を検証した。 ・事業目的を達成するための新たな水管理方法として本県の施設条件に対応した地下灌漑システムを開発した。本事業の成果として開発した技術の普及のためのシステムの導入・利用方法、その効果等を内容とするマニュアルを作成した。</p> <p>エ 課題 ・FOEASで明らかとなった水の効率的な利用効果について、鳥取県型地下灌漑システムにおいても今後明らかにする必要がある。 ・技術導入の経済的メリットをより拡大する目的で、本技術の転換畑野菜への適応性の検討が必要である。</p>	

事業名	概	要
<p>湖山池塩分導入に係る水稲への影響に関する試験事業</p> <p>決算（見込）額 2,474千円 （財源内訳） 国庫支出金 675千円 一般財源 1,799千円</p>	<p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>（ア）目的 湖山池への塩分導入促進が水質浄化・漁業振興の目的で検討されており、池周辺農地での塩害が懸念されている。このため、塩分濃度レベルによる水稲への影響の確認試験および現地圃場における現行塩分管理における水稲への影響を把握する。</p> <p>（イ）事業の実施状況 ①塩分濃度レベルが水稲に与える影響を調査するため、濃度を10段階設定してポット試験を行った。 ②現地（瀬地区）ほ場において、湖山池の現行塩分管理が水稲の生育収量に与える影響を調査した。</p> <p>イ 平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 ①自動採水装置の選定について安価で高性能な機種を選定することにより、経費節減を図った。自動採水装置の導入により、現地ほ場の田面水塩分濃度調査の効率化を図り、詳細な調査をすることが可能となった。 ②近年、現地で作付面積が増加している品種（ひとめぼれ）の塩分濃度試験を行った。</p> <p>ウ 成果 ①ポット試験の結果、コシヒカリではかんがい水の塩分濃度が高いと葉先枯れ、草丈の伸長抑制等の生育停滞が見られた。このため、安定した生育と収量を確保するためには、生育初期に300ppm、その後500ppmを上限とした管理が適当と判断された。 ②現地において、水稲の生育及び収量に塩分導入による影響及び土壌への塩類集積はみられない。 ③試験の公開や結果の速やかな説明により、地元の農業者、漁業者および大学関係者に対して「湖山池塩分導入試験」への理解が深まった。</p> <div data-bbox="438 1339 885 1657">  <p>写真1 葉先枯れ ※500ppm生育初期（移植15日後）</p> </div> <div data-bbox="901 1339 1473 1724">  <p>写真2 穂揃期（移植71日後）における各処理の生育状況</p> </div>	
	<p>エ 課題 ・ひとめぼれはコシヒカリに比べ高い耐塩性をもつ可能性が示唆された。平成22年度はこの点を確認する必要がある。</p>	

事業名	概	要																																		
水稲・大豆の「ゆきの玉手箱」技術確立事業 決算（見込）額 1,850千円 （財源内訳） 一般財源 1,850千円	ア 目的及び事業の実施状況 （ア）目的 消費者が求める安全・安心で高品質な農産物の供給に応え、「食のみやこ鳥取県」をリードする特色ある食材を育成するため、有機栽培水稲・大豆の安定生産と栽培拡大につながる取り組み易い技術の確立に取り組む。当事業は、消費者と有機生産者（志向者含む）のいずれのニーズにも応え、両者ともに支援することをねらいに置く。 （イ）事業の実施状況																																			
○将来ビジョン I ひらく（4）食のみやこ鳥取県	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="470 488 598 533">大課題</th> <th data-bbox="598 488 742 533">中課題</th> <th data-bbox="742 488 1460 533">主な取り組み内容（小課題）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3" data-bbox="470 533 1460 571">I 水稲栽培技術</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 571 742 616">育苗方法</td> <td data-bbox="742 571 1460 616">プール育苗による病害対策と成苗の有機での利点を探った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 616 742 660">除草対策</td> <td data-bbox="742 616 1460 660">ほ場条件ごとの除草技術導入レベルを探る手法を検討した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 660 742 705">病害虫対策</td> <td data-bbox="742 660 1460 705">チェーン除草法を場内で試験し、除草効果等を調査した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 705 742 750"></td> <td data-bbox="742 705 1460 750">微生物資材等によるいもち病防除法の可能性を検討した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 750 742 795"></td> <td data-bbox="742 750 1460 795">イネミズゾウムシの耕種的防除法に関し現地試験を行った</td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="470 795 1460 840">II 大豆栽培技術</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 840 742 884">可能性調査</td> <td data-bbox="742 840 1460 884">場内で有機的管理による大豆栽培を行い問題点を探った</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 884 742 929">除草対策</td> <td data-bbox="742 884 1460 929">現地ほ場にて畑用機械除草機の効果的利用法を検討した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 929 742 974">病害虫対策</td> <td data-bbox="742 929 1460 974">微生物剤によるハスモンヨトウ防除の現地試験を行った</td> </tr> <tr> <td colspan="3" data-bbox="470 974 1460 1019">III 輪作技術</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1019 742 1064">除草関連</td> <td data-bbox="742 1019 1460 1064">有機的管理による輪作栽培を開始し、現象変化と効果を追跡調査（雑草種、連作障害、施肥削減効果）できるほ場を設置した。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1064 742 1108">病害虫関連</td> <td data-bbox="742 1064 1460 1108">なお、今年度は水稲栽培に供試した</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1108 742 1153">地力関連</td> <td data-bbox="742 1108 1460 1153"></td> </tr> </tbody> </table>	大課題	中課題	主な取り組み内容（小課題）	I 水稲栽培技術			育苗方法	プール育苗による病害対策と成苗の有機での利点を探った	除草対策	ほ場条件ごとの除草技術導入レベルを探る手法を検討した	病害虫対策	チェーン除草法を場内で試験し、除草効果等を調査した		微生物資材等によるいもち病防除法の可能性を検討した		イネミズゾウムシの耕種的防除法に関し現地試験を行った	II 大豆栽培技術			可能性調査	場内で有機的管理による大豆栽培を行い問題点を探った	除草対策	現地ほ場にて畑用機械除草機の効果的利用法を検討した	病害虫対策	微生物剤によるハスモンヨトウ防除の現地試験を行った	III 輪作技術			除草関連	有機的管理による輪作栽培を開始し、現象変化と効果を追跡調査（雑草種、連作障害、施肥削減効果）できるほ場を設置した。	病害虫関連	なお、今年度は水稲栽培に供試した	地力関連		
大課題	中課題	主な取り組み内容（小課題）																																		
I 水稲栽培技術																																				
育苗方法	プール育苗による病害対策と成苗の有機での利点を探った																																			
除草対策	ほ場条件ごとの除草技術導入レベルを探る手法を検討した																																			
病害虫対策	チェーン除草法を場内で試験し、除草効果等を調査した																																			
	微生物資材等によるいもち病防除法の可能性を検討した																																			
	イネミズゾウムシの耕種的防除法に関し現地試験を行った																																			
II 大豆栽培技術																																				
可能性調査	場内で有機的管理による大豆栽培を行い問題点を探った																																			
除草対策	現地ほ場にて畑用機械除草機の効果的利用法を検討した																																			
病害虫対策	微生物剤によるハスモンヨトウ防除の現地試験を行った																																			
III 輪作技術																																				
除草関連	有機的管理による輪作栽培を開始し、現象変化と効果を追跡調査（雑草種、連作障害、施肥削減効果）できるほ場を設置した。																																			
病害虫関連	なお、今年度は水稲栽培に供試した																																			
地力関連																																				
イ	平成21年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点																																			
	・実施初年目のため「特になし」																																			
ウ	成果																																			
	・チェーン除草法の導入の可能性を探り、作業時期のタイミングを考慮すれば高い除草効果が得られる見通しがついた。 平成22年度はチェーン除草機の形状を工夫し、より軽量で効果の高い使用法を明確にした上で、成果として取りまとめる予定である。																																			
	・水稲害虫であるイネミズゾウムシの対策を検討し、畦波シートをほ場外周に張りめぐらすことで侵入を防御する方法の効果が高いことが判明した。 平成22年度は畦波シートの施工法の改善と、年次変動を含めた効果について検討を進める予定である。																																			
	・今年度が試験課題実施の初年目であり、現地からの技術対策確立への要望が強い課題に関し、対応する個別技術の可能性を探る点に主眼を置いて取り組んだところ、主だった課題にはそれぞれに対応できる技術のメドがついた。																																			
	今後の成果まとめに向け大まかな道筋が明らかとなった点で、実施初年目としては目標まで十分到達できたと自己評価している。																																			
エ	課題																																			
	・害虫の有機的防除の現地試験に関しては、想定したほどに害虫が発生せず、効果判定が不能となった課題があった。病害虫に関しては気象要因の影響を受けやすく発生程度の年次変動が大きいいため、継続した試験が必要である。																																			

7 歳出調書 (総括表) (一般会計)

平成22年1月31日現在 (単位: 円)

区分	科目	予算				現額			支出済額 B	翌年度 繰越額 C	差引増減額 A-B-C	備考
		当初予算額	補正予算額	繰越事業費 繰越額	予備費 支出及び 流用増減	計 A						
歳出	農業総務費	7,833,000	13,345,000			21,178,000	17,209,614		3,968,386			
	農業改良普及費	61,362,000	0			61,362,000	9,006,451		52,355,549			
	農業試験場費	72,722,000	85,696,000			158,418,000	25,071,647		133,346,353			
	園芸試験場費	167,225,000	17,597,000			184,822,000	61,207,612		123,614,388			
	畜産試験場費	119,999,000	14,225,000			134,224,000	75,759,556		58,464,444			
	中小家畜試験場費	68,382,000	0			68,382,000	37,960,485		30,421,515			
	林業振興費	9,316,000	0			9,316,000	1,332,090		7,983,910			
	林業試験場費	58,091,000	50,498,000			108,589,000	44,460,209		64,128,791			
	合計	564,930,000	181,361,000			746,291,000	272,007,664		474,283,336			
		農林水産業使用料	0				13,740			▲ 13,740		
同	行政財産使用料	0					872,565		▲ 872,565			
	農林水産業手数料	3,106,000				3,106,000	102,720		3,003,280			
	農林水産業費国庫補助金	22,147,000	112,312,000			134,459,000	11,520,000		122,939,000			
	農林水産業費委託金	1,049,000				1,049,000	1,957,000		▲ 908,000			
	財産貸付収入	277,000				277,000	22,158		▲ 254,842			
	生産物売払収入	44,142,000				44,142,000	45,205,629		▲ 1,063,000			
	家畜類売払収入	42,441,000				42,441,000	46,910,099		▲ 4,469,099			
	地域活性化・生活対策臨時交付金基金繰入金		28,531,000			28,531,000			28,531,000			
	農業等検定受託事業収入	15,170,000				15,170,000	4,510,000		10,660,000			
	農林水産研究高度化事業受託収入	7,122,000				7,122,000	10,278,000		▲ 3,156,000			
内	プロジェクト研究受託事業収入	1,000,000				1,000,000	1,000,000		0			
	肥育技術実証試験受託事業収入	544,000				544,000	544,000		0			
	森林総合研究所受託事業収入		1,500,000			1,500,000	1,500,000		0			
	農業・食品産業技術総合研究機構受託事業収入		1,755,000			1,755,000			1,755,000			
	国立大学法人鳥取大学受託事業収入		2,950,000			2,950,000			2,950,000			
	関西地区林業協議会受託事業収入		2,040,000			2,040,000	2,040,000		0			
	雑入		708,000			708,000	600,853		107,147			
	小計	137,706,000	149,088,000			286,794,000	127,076,764		159,717,236			
	一般県費充当	427,224,000	32,273,000			459,497,000	144,930,900		314,566,100			
	合計	564,930,000	181,361,000			746,291,000	272,007,664		474,283,336			

8 事業別実施状況調べ

(単位：円)

事業名	予算額	支出済額	翌年度繰越額 (繰越申請額)	差引残額	事業の計画と実績・成果
(農業試験場費)					
農業試験場 管理運営費	36,040,000	8,287,559	0	27,752,441	施設の維持管理、非常勤職員等の雇用等、試験場の管理運営を行った。
農業試験場 施設整備費	13,271,000	2,060,000	7,223,000	3,988,000	試験場圃場の用排水路の改修を行った。
試験研究費	31,531,000	16,393,602	4,076,000	11,061,398	主要農作物(水稲・麦・大豆)、農機具、農業経営及び土壌等の各種試験研究を行った。 うち、自立できる水田農業の収益性向上を支える技術開発事業外3事業は、「6主な事業に関する調べ」に、水稲新品種育成試験外14事業は、「31試験研究調査事業別実施状況調べ」に記載。
身近な農業試験 場推進事業	644,000	390,486	0	253,514	試験研究結果、及び開発中の技術等の情報提供を行った。
農業試験場用排 水路改修工事	45,990,000	0	45,990,000	0	農業試験場圃場の用排水路の改修を行う。
農業試験場屋上 防水改修工事	30,942,000	0	30,942,000	0	農業試験場本館及び別館の屋上防水改修工事を行う。
目 計	158,418,000	27,131,647	88,231,000	43,055,353	

9 予備費の充用調べ 該当なし

10 繰越関係調べ

(1) 継続費通次繰越調べ 該当なし

(2) 繰越明許費調べ

(単位：円)

科目	事業名	金額	翌年度繰越額 (繰越申請額)	左の財源内訳				繰越理由
				既収入特定財源	未収入特定財源		一般財源	
					国庫支出金	その他		
農業試験場費	農業試験場屋上防水改修工事	30,942,000	30,942,000		30,942,000			事業計画の変更による
農業試験場費	農業試験場用排水路改修工事	45,990,000	45,990,000		45,990,000			事業計画の変更による
農業試験場費	農業試験場施設整備費	13,271,000	7,223,000				7,223,000	22年度前倒しによる
農業試験場費	施設整備費(主要農作物原探種事業)	1,188,000	1,188,000				1,188,000	22年度前倒しによる
農業試験場費	施設整備費(水環境を守る肥料の低投入・低流出稲作技術の開発)	2,888,000	2,888,000				2,888,000	22年度前倒しによる
合計		94,279,000	88,231,000		76,932,000		11,299,000	

(3) 事故繰越調べ 該当なし

1 1 収入証紙取扱額調べ 該当なし

1 2 収入事務処理状況調べ
 (1) 分担金及び負担金 該当なし

(2) 使用料

(単位：円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
行政財産使用料	行政財産使用	電柱敷等	4	67,100	67,100	0	0	鳥取県行政財産使用料条例	
		職員駐車場	10	393,000	393,000	0	0	〃	4～1月分
	計(節)		14	460,100	460,100	0	0		
	目計		14	460,100	460,100	0	0		
	合計		14	460,100	460,100	0	0		

(3) 手数料 該当なし

(4) 財産収入

(単位：円)

目	収入科目		件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	細節							
生産物売払収入	生産物売払	播種用原種ほか	11	5,135,883	5,135,883	0	0	生産品事務取扱要領(物品規則)	
		計(節)	11	5,135,883	5,135,883	0	0		
	目計		11	5,135,883	5,135,883	0	0		
	合計		11	5,135,883	5,135,883	0	0		

(5) 寄付金 該当なし

(6) 諸収入

(単位：円)

目	収入科		目	件数	調定金額	収入済額	不納欠損額	収入未済額	根拠法令名等	備考
	節	目								
雑入	雑入		データー使用料	1	29,000	29,000	0	0		
			原稿筆耕料	1	25,000	25,000	0	0		
			自販機電気代等	6	119,737	119,737	0	0		
			預金利息	1	15	15	0	0		
			目計		173,752	173,752	0	0		
			合計		173,752	173,752	0	0		

13 税外収入未済額調べ

101

14 未収金回収促進のための取り組み状況調べ 該当なし

15 税外収入不納欠損額調べ 該当なし

16 債務負担行為の状況調べ

事業名	種別	設定状況			当該事業の 契約額等	執行(支出)状況				備考
		議決	期間	限度額		設定年度の 執行額 A	債務負担行為の期間		合計 A+B	
							20年度までの 執行額	21年度執行額		
平成20年度 農業試験場施設 管理等業務 委託	委託料	H20年12月	H21年度か らH23年度 まで	円 3,675,000	円 0	円 1,204,602	円 2,409,204	円 3,613,806	円 3,613,806	
平成20年度 農業試験場原 種合理化施設 種子貯蔵庫保 守点検業務委 託	委託料	H20年12月	H21年度か らH23年度 まで	747,000	0	248,850	497,700	746,550	746,550	
合計				4,422,000	0	1,453,452	2,906,904	4,360,356	4,360,356	

17 負担金、補助金、交付金及び委託料支出状況調べ
 (1) 負担金

(単位：円)

予算科目 (目)	予算額令達額	負担金の名称	支出先	負担率	支出年月日	支出金額	支出の根拠法令等 (規約、要領等を含む)	備考
(農業試験場費)	133,000	大口堰土地改良区賦課金	大口堰土地改良区		H21.5.25	132,487		
支出額が10万円未満のもの						80,160		
目計						212,647		
(農作物対策費)								令達元：生産振興課
支出額が10万円未満のもの	10,000				H21.5.08	10,000		
目計						10,000		
合計						222,647		

(2) 補助金 該当なし

(2-2) 補助金 (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの) 該当なし

(3) 交付金 該当なし

(4) 委託料

(単位：円)

予算科目 (目)	国補 単 果 の 別	委託料の名称	委託契約の 相手方	当初		契約		入札等 年月日 (契約保証金納 付等年月日)	完了 年月日	支出の状況			備考	
				予定価格	変更契約(最終)	契約 年月日	契約 期間			契約形態	支出 区分	支出 年月日		金額
農業試験場費	単果	原種貯蔵施設 設保守点検 業務	(有)オ一 ルエンジニア アサービズ	747,000	(H21.4.1) 746,550	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.26 (免除)	H21.5.26 外	精算	H21.6.09 外	165,900	H21~23年度 債務負担行為 年額 248,850		
農業試験場費	単果	農業試験場 工レベ一 一保守点検 業務委託	三菱電機ピ ルテクノサ 一ビス(株) 中国支社	2,118,000	(H21.4.1) 2,079,000	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.27 (免除)	H21.4.30 外	精算	H21.5.12 外	519,750	H21~23年度 債務負担行為 年額 693,000		
農業試験場費	単果	自家用電気 工作物保守 管理業務託	(財)中国 電気保安協 会	930,006	(H21.4.1) 930,006	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.30 (免除)	H21.4.08 外	前払	H21.5.12	310,002	H21~23年度 債務負担行為 年額 310,002		
農業試験場費	単果	庁舎警備業 務委託	山陰警備保 障(株)	606,000	(H21.4.1) 604,800	H21.4.1~ H24.3.31	H21.3.19 (免除)	H21.4.30 外	精算	H21.5.19 外	151,200	H21~23年度 債務負担行為 年額 201,600		
農業試験場費	単果	廃液処理業 務委託	(株)イ一 ジーエス	@90円/Kg ほか	(H21.9.9) @90円/Kgほか	H21.9.9~ H22.3.31	H21.8.20 (免除)	H21.10.23 外	精算	H21.12.11	88,830			
農業試験場費	単果	食味官能試 験	(財)日本 穀物検定協 会関西神戸 支部	852,600	(H22.1.7) 852,600	H22.1.7~ H22.3.19	H21.12.10 (免除)	—	精算	—	—			
予定価格が20万 円未満のもの 目計											169,077			
合計											1,404,759			
合計											1,404,759			

(4-2) 委託料 (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの)

該当なし

18 工事請負費調べ

(単位：円)

予算科目 (目)	国補 単 単 の 別	工 事 名	当 初 契 約		入札等年月日 (契約保証金 納付等年月日)	請 負 人	支 出 状 況		実 地 完 成 年 月 日 検 査 年 月 日	更 (解 除) の 理 由	備 考	
			(竣工年月日) 設計額	(契約年月日) 契約額			支 出 区 分	年 月 日				金 額
			変 更 (変更年月日) 設計額	契 約 (最終) (契約年月日) 契約額								
			() ()	() ()			~					
農業試験場費	単 県	農業試験場 (試験 圃漏水対策) 工事	() ()	() ()	() ()			2,060,000			東部総 合農林 局地域 整備課 に令達	
目 計								2,060,000				
合 計								2,060,000				

18-2 工事請負費調べ (他課から予算の配当替えを受けて執行したもの)

該当なし

19 財産に関する調べ

(1) 公有財産

ア 土地

(平成22年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						本年度末		備考	
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記年月日	面積 (㎡)	価額 (円)		
行政財産	農業試験場ほ場	鳥取市橋本字原縄手144-2外	28,023.00		増加	H								
	農業試験場ほ場	鳥取市橋本字立石162外	49,956.51		増加	H								
	農業試験場ほ場	鳥取市橋本字井手ノ上206-1外	4,986.00		増加	H								
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字井手ノ上211,212	3,619.00		減少	H								
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字下藪江215-1外	6,032.00		増加	H								
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字上藪江220外	5,855.00		減少	H								
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字加源谷225-1外	3,252.82		増加	H								
	農業試験場敷地	鳥取市橋本字奥ヶ谷224外	19,987.95		減少	H								
	計			121,712.28									121,712.28	
	普通財産	該当なし		0		増加	H							
				0		減少	H							
	計			0									0	
	合計			121,712.28									121,712.28	

イ 建物

(平成22年1月31日現在)

行政・ 普通財 産の区 分	機関名又は 施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						本年度末		備考				
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減 別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記 年月日	面積 (㎡)	価額 (円)					
行政 財産	農業試験場 本館	鳥取市橋本	2,423.60		増加	H											
					減少	H							2,423.60				
	付属棟	"		182.00		増加	H										
						減少	H							182.00			
	渡廊下	"		24.00		増加	H										
						減少	H							24.00			
	収納舎	"		495.00		増加	H										
						減少	H							495.00			
	油倉庫	"		7.70		増加	H										
						減少	H							7.70			
	車庫	"		118.67		増加	H										
						減少	H							118.67			
	自転車置場	"		27.36		増加	H										
						減少	H							27.36			
土壌調整室	"		43.74		増加	H											
					減少	H							43.74				
土壌殺菌室	"		24.30		増加	H											
					減少	H							24.30				
人工気象室	"		63.00		増加	H											
					減少	H							63.00				
病害虫温室 網室	"		162.00		増加	H											
					減少	H							162.00				
世代短縮温 室	"		67.00		増加	H											
					減少	H							67.00				
科学ガラス 網室	"		180.00		増加	H											
					減少	H							180.00				
作物ガラス 網室	"		127.44		増加	H											
					減少	H							127.44				
ほ場詰所	"		81.00		増加	H											
					減少	H							81.00				
肥料倉庫	"		45.00		増加	H											
					減少	H							45.00				

ウ山林

(平成22年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	土地の権利区分	機関名又は施設名等	所在地	土地の面積等						立木の推定蓄積量			備考		
				前年度末面積 (㎡)	増減別	本年度異動日	面積 (㎡)	増減理由	登記年月日	本年度末面積 (㎡)	前年度末現在高 (㎡)	本年度中増減高 (㎡)		本年度末現在高 (㎡)	
															増加
行政財産	県有	農業試験場	鳥取市橋本 宇奥ヶ谷 291-1外	3,508.95	増加	H			H						
計				3,508.95											
普通財産		該当なし			増加	H			H						
計				0	減少	H			H						
合計				3,508.95											

- エ 不動産売却等 該当なし
- オ 財産の交換 該当なし
- カ 動 産（船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機） 該当なし
- キ 物 権 該当なし
- ク 無体財産権（特許権、著作権、商標権、実用新案権等） 該当なし
- ケ 有価証券 該当なし
- コ 出資による権利 該当なし

(2) 金券類の受払状況

(平成22年1月31日現在)

種 別	前年度末	本 年 度 中		本年度末	備 考
		購 入 額	使 用 額		
郵便切手及び郵便はがき	円 48,049	円 93,960	円 74,850	円 67,159	(購入額93,960円 中260円はお年玉 付年賀葉書当選切 手受入分)
収入印紙	1,800	0	0	1,800	
収入証紙					
タクシークーポン券					
鉄道バスプリペイドカード					
合 計	49,849	93,960	74,850	68,959	

(3) 基 金 該当なし

(4) 債 権

(平成22年1月31日現在)

債権の名称	前 年 度 末		本 年 度 中				本 年 度 末		備 考
	金 額	件 数	増		減		金 額	件 数	
			金 額	件 数	金 額	件 数			
行政財産使用料	円 101,800	2	円 93,760	2	円 27,700	0	円 167,860	4	
合 計	101,800	2	93,760	2	27,700	0	167,860	4	

20 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 土地

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	住所	
行政財産	NTT電話柱設置	鳥取市橋本260	電話柱5本 支線1条	H19.04.01	H14.04.01	H19.04.01 ~ H24.03.31	円換・年額 9,000	9,000	鳥取市湯所町2-258 西日本電信電話(株) 鳥取支店		
	電力柱設置	鳥取市橋本260	電力柱3本 支線1条	H21.04.01	H16.03.31	H21.04.01 ~ H26.03.31	円換・年額 7,480	7,480	鳥取市高栄町117-3 中国電力(株) 鳥取営業所		
	ソフトバンクモバイル携帯電話基地局	鳥取市橋本260	16.0㎡	H20.03.03	H15.10.24	H20.04.01 ~ H25.03.31	円換・年額 18,700	18,700	東京都港区東新橋 1-9-1 ソフトバンクモバイル		
計		該当なし						35,180			
普通財産											
計											
合計								35,180			

イ 建物

行政・普通財産の区分	貸付(使用許可)目的	所在地	数量又は面積	貸付(使用許可)年月日	当初貸付(使用許可)年月日	貸付(使用許可)期間	貸付(使用)料(円)		貸付(使用許可)先		備考
							単価	本年度の貸付(使用)料	住氏名	住所	
行政財産	自動販売機設置	鳥取市橋本260	2㎡	H21.04.01	H21.04.01	H21.04.01 ~ H24.03.31	円換・年額 31,920	31,920	東京都港区芝大門2-5 -5 ネオス(株)		
計								31,920			

(2) 物品 (1品の取得価格が100万円以上のもの)

該当なし

2.1 借受不動産明細調べ 該当なし

2.2 職員住宅及び職員駐車場の管理状況調べ

(1) 職員住宅 該当なし

(2) 職員駐車場
了 管理状況

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	農業試験場(鳥取市橋本260番地)	12.5	1,000
普通財産	該当なし		

イ 異動状況
(行政財産)

月別	月初日	減		増		月末日		調定額	収入済額	収入未済額
		人	うち減免	人	うち減免	人	うち減免			
4月	35	人		人		35		35,000		
5月	35			4		39		39,000		
6月	39					39		39,000		
7月	39					39		39,000		
8月	39					39		39,000		
9月	39			1		40		40,000		
10月	40			1		41		41,000		
11月	41					41		41,000		
12月	41	2				39		41,000		
1月	39					39		39,000		
2月										
3月										
合計								393,000	393,000	0

2.3 自動車（二輪を除く）の管理状況調べ

車種	年式	登録番号	取得年月日	総走行 キロ数	本年度			備考
					稼働 日数	(1ヶ月平均) 走行キロ数	修理費等	
普通貨物トラック	H3	鳥取11 せ31-45	保管換え H12.07.24 H3.07.26	km 196,997	日 65	(496.9) km 4,969	円 131,700	
合計		台 1					円 131,700	

2.4 寄附物件の受納状況調べ 該当なし

2.5 備品の処分状況調べ

品名 (規格・銘柄)	数量	(保管換年月日) 取得年月日	耐用 年数	取得価格	不用 決定 年月日	不用 とする 理由	処 分				備考
							売却 棄却 の別	売却方法・ 棄却理由	処 分 年月日	売却額・ 処分費用	
成苗田植機	1	S60. 5.27	5年	円 366,400	H21.7.15	使用不能	棄却	使用不可能 のため	H21.8.10	円 0	
刈払機	1	S62. 11.20	5	60,000	H21.7.15	使用不能	棄却	使用不可能 のため	H21.8.10	0	
合計	2			426,400						0	

2.6 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ 該当なし

2.7 貸付金等状況調べ 該当なし

2.8 事業別予算執行状況調べ

目 名		財産管理費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予算 令達額 円	支出済額 円	左 の 事 業 内 訳	
県有施設営繕事業	8,214,336	6,991,637	(事業概要) 県有施設(農業試験場)22箇所を修繕	
計	8,214,336	6,991,637		

目 名		農業総務費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予算 令達額 円	支出済額 円	左 の 事 業 内 訳	
農林水産部管理 運営費	47,775	47,775	(事業概要) オンドトリの購入	
計	40,000	22,830		

目 名		農作物対策費		(平成22年1月31日現在)
事業名	予算 令達額 円	支出済額 円	左 の 事 業 内 訳	
花き振興アクションプログラム 実践事業(花ふれあい事業)	40,000	12,830	(事業概要) 花壇設置(花苗等購入)に要する経費	
有機・特別栽培 農作物等総合支援事業	10,000	10,000	(事業概要) 日本有機農業学会入会に係る年会費(負担金)	
計	50,000	22,830		

(平成22年1月31日現在)

目 名		肥料植物防疫費	
事業名	予算 令達額 円	支出済額 円	左 の 事 業 内 訳
植物防疫総合 対策事業	277,000	15,750	(事業概要) 精度の高い病害虫発生予察調査の実施及び情報の提供を行うとともに、病害虫の発生原因及び防除技術の確立等を行い、農作物生産者の利益向上に資する。 農業試験場では発生予察ほ場を設置し、水稻の病害虫発生状況を調査するとともに、調査データを病害虫防除所が発表する予察情報に活用した。
農薬適正使用 推進事業	1,625,000	613,963	(事業概要) 農薬の適正使用を推進することで、安心・安全な農産物の生産を支援する。 農業試験場では県特産物のうちマイナー作物で問題となる病害虫防除に必要な農薬の登録を拡大するため、2種類の農薬について農作物の残留農薬分析を行った。
計	1,865,000	629,713	

品名	形式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数	燃料		修繕費等	左の主な内容	備考
					消費量	金額			
トラクター	ヤンマー YH3110	S64. 5. 21	耕地整地、代かき	14	102. 6	6, 987	15, 750	バケットシリンダー溶接修理	
トラクター	クボタ Z11-33	S61. 5. 7	"	34	249. 0	16, 957			
トラクター	ヤンマー FX435	H 4. 5. 15	"	44	322. 5	21, 962			
トラクター	クボタ GL367QBSMAP	H10. 4. 27	"	42	307. 9	20, 968	8, 348	前輪車軸オイル漏れ	
種子用コンバイン	ヤンマー CA135PT	H 3. 9. 30	稲刈り	3	22. 0	1, 498	734	搬送引起しズメ交換	
コンバイン	イセキ HL177	H 5. 6. 9	"	13	95. 3	6, 490	49, 570	刈取り部修理、ベルト交換	
コンバイン	三菱 MC405DGCLM	H 9. 9. 22	"	15	110. 0	7, 491	61, 187	部品交換、ベルト交換	
コンバイン	ヤンマー GC 219	H17. 6. 30	"	7	51. 3	3, 494			
種子用ハーベスタ	ヤンマー PXD600T	H 1. 9. 5	"						
種子用ハーベスタ	ヤンマー PKO600T	H 4. 3. 10	"	2	14. 7	1, 001			
テラー	ヤンマー YTA-6A	H 2. 6. 11	収穫物等運搬	1	7. 3	497			
テラー	ヤンマー YT-400	H 4. 5. 29	"	5	36. 7	2, 499			
テラー	クボタ TD 700	H18. 5. 8	"	30	220	14, 982			
動力運搬車	CG191SLD-EW	H17. 5. 2	"	64	130. 0	15, 405			
動力運搬車	ライガー GX-101	H 6. 5. 23	"	111	139. 9	14, 550	20, 738	エレメント、燃料コック交換	
動力運搬車	築水キャニコムELL801KZPW	H 9. 10. 1	"	103	129. 8	13, 499	26, 565	フィルター、シート交換	
耕うん機	ヤンマー YS-80	S47. 11. 30	耕地碎土、畦立						
管理機	ヤンマー ST-512	H 1. 9. 25	除草土寄せ、畦立	6	12. 2	1, 446			
管理機	IRS AR 600	H 3. 7. 9	"	5	10. 2	1, 209			
ネギ用管理機	ヤンマー NK7X M3	H11. 4. 23	"	6	12. 2	1, 446	31, 164	ブーリー、リコイルスタータ交換	
田植機	イセキ PS20さなえ	H 4. 5. 20	田植	4	8. 1	960	5, 985	クラッチワイヤー交換	
田植機	イセキ PC20	H 14. 4. 30	"	11	22. 3	2, 643	5, 187	リコイルスタータ交換	
田植機	クボタ SP-2HDSF	H 9. 5. 20	"						
側条施肥田植機	ヤンマー YP-250	S60. 5. 24	"						
成苗田植機	みのる LTP-4000	S60. 5. 27	"						
乗用田植機	イセキ PA-4000	S63. 4. 30	"	9	18. 3	2, 169			
乗用田植機	イセキ PM-40DCUW	H 7. 5. 1	"	13	26. 4	3, 128			
バインダー	クボタ ZF-52	S58. 7. 30	稲、麦刈						
バインダー	ヤンマー YB 65	H 1. 9. 18	"	1	2. 0	237			
バインダー	ヤンマー YB-50	H 4. 2. 25	"	3	6. 1	723			
大豆収穫機	ヤンマー CS21(D)	H 6. 11. 18	大豆刈取	8	58. 6	3, 991	30, 662	各種Vベルト交換	
不耕起播種機	みのる 歩行型2条型一式	H 7. 1. 10	乾田直播用播種						
フォークリフト	小松 FG09-2	H 9. 10. 16	収穫物等運搬	129	262. 0	31, 047	49, 350	特定検査整備	
歩行型マルチャー	ヤンマー PRT851 F-RB40ABD	H 9. 7. 15	新つん、畦立、マルチンダ						
合計					2, 377. 4	197, 279	305, 240		

30 生産物(品)に関する調べ

(平成22年1月31日現在)

生産部門	品名種類	作付面積 a	生産計画数量 kg	生産数量			処分数量				差引	備考			
				前年度からの繰越	生産購入	場内使用	差引計	売却	却				目的外使用		
									数量	金額			数量	金額	数量
水稻	原種	210	7,000	10,454.2	3,759.5	14,213.7	3,998	1,481,736	3,998	1,481,736	3,998	1,481,736	28.9	10,186.8	
玄米	一般	430	24,000	30	21,090.0	21,120.0	13,230	2,318,293	13,230	2,318,293	13,230	2,318,293		7,890	
	原種			49.7		49.7								49.7	
	一般														
	計														
	原種	95	3,500	3,579.5		3,490.0	2,650	1,181,050	2,650	1,181,050	2,650	1,181,050	89.5	840.0	
	一般	87	2,800	2,471.0	2,171.1	4,642.1	2,471	154,804	2,471	154,804	2,471	154,804		2,171.1	
	計														
合計	計							5,135,883		5,135,883		5,135,883			

事業名	水稲新品種育成試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S43年度 ～ 継続		(予算額)	(1,447,000円)
			支出済額	865,171円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 県の顔となるような水稲新品種の育成	場内 智頭町 鳥取市 国府町	初期世代 30a 生産力検 定 20a 現地試験 30a	鳥取県における水稲の各栽培地帯及び栽培体系に適應する優良品種を育成する。	(成果) 約50交配組合わせ、約70組合せのF1個体養成、約70組合せの世代促進、集団養成、約1000系統の系統養成、約200系統の生産力検定を行い有望系統を選抜した。 (課題) 地球温暖化や耐病性に対応しうる品種の育成。

事業名	品種選定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(1,880,000円) 957,430円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単)(補助)(委) 1. 水稻 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 10ヶ所	52a 56系統 各10a 早生粳 4ヶ所各2系統 中生粳 4ヶ所各2系統 極早生糯 2ヶ所各1系統	本県で普及奨励する水稻の優良品種を選定するため鳥取農試、独立行政法人(作物研究所ほか4機関)、公立試(福井県農業試験場ほか8機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1) 予備調査 極早生から中生および飼料稲まで56系統を供試し、1系統をやや有望とし、29系統を継続、26系統を打ち切りとした。 (2) 本調査 極早生から中生まで5系統を供試し、5系統を継続とした。 (3) 現地調査 本調査と同様の5系統を極早生から中生まで供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
				(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。
				(成果) (1) 予備調査 二条大麦は1系統をやや有望とし、3系統を継続とし、六条大麦は1系統をやや有望、2系統を継続、2系統を打ち切りとした。 (2) 本調査 二条大麦の1系統を供試し、やや有望とした。 (3) 現地調査 本調査と同様の1系統を供試し、調査結果を上記の判定に活用した。
(課題) 新配布系統を含め早期に優良品種を選定。				
2. 麦類 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査および現地調査を行い、供試品種の特性を明らかにする。	場内 県内現地 1ヶ所	10a 二条大麦 4系統 六条大麦 5系統 10a 1系統	本県で普及奨励する麦類の優良品種を選定するため、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1) 予備調査 早生および中生を11系統供試し、4系統を継続、7系統を打ち切りとした。 (課題) 新規系統を含め、有望系統があれば本試験・現地調査に供試し、本県において栽培に適した優良品種を選定
				(成果) (1) 予備調査 早生および中生を11系統供試し、4系統を継続、7系統を打ち切りとした。
				(課題) 新規系統を含め、有望系統があれば本試験・現地調査に供試し、本県において栽培に適した優良品種を選定
3. 大豆 主要農作物種子制度運用基本要綱に基づき、基本調査を行い供試品種の特性を明らかにする。	場内	15a	本県で普及奨励する大豆の優良品種を選定するため、独立行政法人(作物研究所ほか2機関)、公立試(長野県農業試験場)で育成された系統について特性を調査検討する。	(成果) (1) 予備調査 早生および中生を11系統供試し、4系統を継続、7系統を打ち切りとした。
				(課題) 新規系統を含め、有望系統があれば本試験・現地調査に供試し、本県において栽培に適した優良品種を選定
				(成果) (1) 予備調査 早生および中生を11系統供試し、4系統を継続、7系統を打ち切りとした。
(課題) 新規系統を含め、有望系統があれば本試験・現地調査に供試し、本県において栽培に適した優良品種を選定				

事業名	新品種栽培マニュアル策定試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H4年度(水稲・大豆)、H15年度(麦類) ~ 継続		(予算額)	(746,000円)
			支出済額	286,655円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
<p>(単)</p> <p>奨励品種への採用が見込まれる水稲・大豆・麦類品種・系統について、円滑な普及と導入農家における生産安定を図るため、特性を活かした栽培法を確立する。</p> <p>また、奨励品種採用後に明らかになった栽培上の問題点についても技術対策を策定する。</p>	場内	12a 2品種	水稲 「ゆめそらら」の品質を向上させる栽培技術を確立する。	(成果) 水稲 「ゆめそらら」は基肥窒素2kg/10a・穂肥1回目を幼穂1mm時に施用することで品質が向上し、収量も確保できることが明らかとなった。
		2a 1品種	ビール麦 二条大麦「しゅんれい」について、増収とコスト低減を目的とした基肥施肥量を検討する。	ビール麦 基肥減量により品質は基準品種と同等以上になるものの低収となり、基肥は規定量必要であることが明らかとなった。
		7a 3品種	大豆 大豆主要3品種における水分ストレスが生収収量に及ぼす影響を明らかにする。	大豆 従来から使われていた「葉が軽い萎縮症状を示してから灌水する」との指標よりも早めの灌水を行なうことにより生育・収量が向上することが明らかとなった。
				(課題) 水稲 「ゆめそらら」については、上記より少肥にした場合等の品質収量確保技術の検討。 ビール麦 「しゅんれい」について増収・品質向上のための穂肥時期・量の検討。 大豆 上記灌水時期の判定方法の検証。

事業名	主要農作物原種採種事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	S29年度(水稻)、S56年度(大豆) ～ 継続		(予算額)	(3,006,000円)
			支出済額	837,284円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 水稻の原々種の採種	場内	9a	水稻原々種の選抜。	(成果) 日本晴24系統、きぬむすめ16系統、ゆめそらら21系統について採種を行った。 (課題) 特になし。
2. 水稻原種の採種	場内	140a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) ひとめぼれ、コシヒカリ、ヤマヒカリ、きぬむすめ、ゆめそらら、鈴原もち、ハクトモチについて採種を行った。 (課題) 特になし。
3. 大豆の原々種の採種	場内	7a	大豆原々種の採種。	(成果) すずこがね26系統、タマホマレ28系統、サチユタカ26系統について採種を行った。 (課題) 特になし。
4. 大豆原種の採種	場内・現地	148a	優良な原種を増殖し、採種ほに供給する。	(成果) サチユタカ、タマホマレ、すずこがね、地大豆(緑だんだん)について採種を行った。 (課題) 特になし。

事業名	米の新規需要に対応する超低コスト生産技術の確立		担当室別	作物研究室・環境研究室
実施計画期間	H21年度 ～ H23年度		(予算額)	(3,064,000円)
			支出済額	1,755,366円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単、委) 1. 多収稲による超低コスト栽培技術の確立	場内	126a	水稲多収性品種(タカナリ・北陸193号・モミロマン等)を用いて育苗の省力化、資材の節減方法等を検討するとともに、ほ場管理作業の省力化、水田有効活用のための耕作放棄地の復田化方法等について検討する。	(成果) 短期育成苗等の利用により多収性を概ね確保できる見通しを得た。低価格肥料を用いて施肥時期、施肥量の違いが収量に及ぼす影響を確認し、施肥時期・量の目安を得た。 チゼルプラウを活用した場合の耕起作業の省力化効果を明らかにした。また、畦畔被覆植物を利用し初期の畦畔草刈り作業の省力化効果を確認した。復田化で問題となる漏水対策としてほ場の透水性等を確認した。 (課題) 多収性の年次変動の把握及び省力化・省資材技術の生産安定化の検討。
2. 主食用品種の低コスト技術の確立	現地	6圃場	主食用品種への省力化技術適応性について、現地での取り組み事例を調査する。	(成果) コシカ等での湛水直播では、倒伏の発生、雑草害等が問題となることが明らかとなった。 (課題) 倒伏しにくい品種を用いた省力・生産安定技術の検討。
3. 現地実証及び経営評価	南部町	22a	多収米における省力栽培技術の適用性について現地実証を行う。また、開発技術の経済性について検討する。	(成果) 多収米の湛水直播栽培においては、出芽苗立ちの不安定性等が実用上の問題点となることを明らかにした。また、耕起作業の省力化技術のコスト低減効果等について試算した。 (課題) 安定的な生育・収量を得る省力作業法等の実証とそれらの技術の費用対効果の検討。
4. 新規用途での多収稲の加工適性等の検証	場内	6a	産業技術センターや中小家畜試験場と連携し、米粉加工適性や飼料適性について検討する。	(成果) 多収米において施肥量を変えた場合の玄米品質に及ぼす影響を確認した。 (課題) 米粉製粉特性、飼料給与特性の解明(関係機関で分析予定)。

事業名	自立できる水田農業の収益性向上を支える技術開発事業		担当室別	作物研究室・環境研究室
実施計画期間	H19年度 ～ H21年度		(予算額) 支出済額	(3,060,000円) 1,926,055円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 転作田での収益性向上技術の開発 1) 新規作物の探索 2) 排水性等改善技術の確立 3) 連作障害回避技術の確立	場内 八頭町 鳥取市気高町 場内	13a 22a 20a 13a	6 主な事業に関する調べに記載。	
2. 稲作の生産性向上技術の確立 1) ほ場管理(水管理等)の省力化技術 2) 多数ほ場管理に適した収量・品質高位化技術の確立	鳥取市北村 場内 鳥取市北村 北栄町西穂波	給水装置設置1箇所 11a 33a 57a		
3. 経営への導入に向けた判断材料の整備 1) 新規作物導入のための経営判断指標策定 2) 開発技術の経営的評価	場内 場内	— —		

事業名	水稲・大豆作問題雑草の総合防除対策 試験		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H20年度 ～ H23年度		(予算額) 支出済額	(812,000円) 486,468円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委、単) 1. 水稲新除草 剤	場 内	20 a	水稲用新除草剤の本県へ の適応性検討。	(成果) 9剤について実用可能と判定した。 (課題) 難防除雑草に有効な新除草剤の探索。
2. 大豆作にお ける難防除雑 草の防除技術 確立	場 内 現 地	20 a 20 a	栽培法ごとの雑草発生の 特徴の把握。 田畑輪換体系における2 年目の雑草量・土中種子量 の把握。	(成果) 播種時期の早晚や耕うん方法の違いと雑草 発生の特徴を明らかにした。 クサネム、アメリカセンダングサの土中種 子量は水稲作後に減少することを確認した。 (課題) 雑草発生量、土中種子量の連年変化の把 握。 除草剤並びに田畑輪換等耕種的防除の組み 合わせによる総合的な防除方法の検証。

事業名	水田主要作物生育情報提供事業		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H17年度 ～ H21年度		(予算額)	(615,000円)
			支出済額	397,882円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 水稲主要品種における生育データの集積・解析と情報提供	場内 現地13ヵ所	場内7a 坪刈2～3 地点/箇所	コシカ、ひとめぼれ等の生育データの集積するとともに穂肥施用時期の目安となる幼穂形成期等の予測について検討する。それらの生育情報について随時現地に提供を行う。	(成果) 生育推移や収量・品質・食味等のデータを集積した。生育状況及び幼穂形成期等の予想日について「稲作技術情報」やHP等を通じて関係機関に情報提供した。田植時期からの積算気温を使った予想方法について過去10年間にさかのぼって基準温度の確認を行った。 (課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信。
2. 麦類主要品種におけるデータの集積・解析と情報提供	場内	8a	二条大麦(アサコノホト)及び六条大麦(シユンライ)の生育データを集積するとともに、随時現地へ生育情報を提供する。	(成果) 麦の生育・収量データを集積した。得られたデータは「麦作技術情報」等を通じて関係機関に情報提供した。 (課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信。
3. 大豆主要品種におけるデータの集積・解析と情報提供	場内	20a	サ11カ、ヌホル等の生育データを集積するとともに、随時現地へ生育情報を提供する。	(成果) 開花期・収量・品質等のデータを蓄積した。得られたデータは「大豆作技術情報」等を通じて関係機関に情報提供した。 (課題) データ集積を継続し、生育指標値を随時修正していくとともに、生育ステージ等の情報を随時発信していく。

事業名	鳥取県型地下灌漑システムの確立		担当室別	作物研究室
実施計画期間	H20年度 ～ H21年度		(予算額)	(371,000円)
			支出済額	248,170円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. 大豆栽培における地下灌漑法の確立	場内	30a	6 主な事業に関する調べに記載。	
(単 一部委) 2. 水稲栽培における地下灌漑法の確立	北栄町 田井 北尾	60a 90a		

事業名	水稲・麦・大豆の高品質・安定生産を 目指した病害虫防除技術の確立		担当室別	環境研究室
実施計画期間	平成18年度 ～ 平成22年度		(予算額) 支出済額	(1,956,000円) 1,169,997 円
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単・委) 水稲・麦・大 豆の生育阻害 および生産物 の品質低下の 原因となっ ている病害虫を 対象に、高品質・安定生産 が可能な効率的防除法を確 者の労力軽減 を目指した水 稲・大豆の省 力防除技術を 確立する。	場内 鳥取市 智頭町 八頭町 琴浦町	30a 20a 5a 15a 20a	1. 水稲の生産安定を目指 した病害虫防除技術の確立 (いもち病、フタオピコヤ ガ) 2. 玄米品質向上を目指し た病害虫防除技術の確立 (内穎褐変病、斑点米カメ ムシ類) 3. 優良水稲種子安定供給 のための病害防除技術の確 立(もみ枯細菌病菌による 稲株腐敗症)	(成果) ・いもち病に対する新規殺菌剤(播種時覆土 前処理専用剤)の防除効果におけるを確認し た(参考情報)。 ・新規育苗箱施用剤のいもち病・フタオピコ ヤガに対する高い防除効果を確認し、本剤が 鳥取県の病害虫発生実態に最も適した剤であ ることを明らかにした。 ・いもち病に効果を示す微生物を室内実験に よって発見した。 ・育苗箱施用剤を用いた斑点米カメムシ類新 防除法の効果を明らかにした。 ・フェロモントラップを水田内に設置するこ とにより、斑点米カメムシ類のモニタリング が可能であることを明らかにした。 (課題) ・いもち病・フタオピコヤガに対する新規育 苗箱施用剤(播種時覆土前処理)の防除効果 の年次変動を確認する必要がある。 ・斑点米カメムシ類新防除法の現地実用性を 確認する必要がある。 ・カメムシフェロモントラップの設置条件お よび誘殺数と斑点米混入率との関係を解明す る必要がある。 ・発見した微生物のいもち病防除効果をほ場 レベルで確認する必要がある。 ・稲株腐敗症に対して高い防除効果を示す薬 剤を検索する必要がある。

事業名	新農薬の適用に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S46年度 ～ 継続		(予算額) 支出済額	(867,000円) 672,503 円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(委) 本県の普通作物病害虫に適した新規の防除薬剤の選択および登録促進を目的として、日本植物防疫協会から受託し、効果を確認するとともに、本県の防除対策に資する。	場内 八頭町 智頭町	25a 20a 20a	殺菌剤およびその混合剤8剤、殺虫剤およびその混合剤8剤、計16剤の防除効果を検討する。	(成果) 新規薬剤の防除効果は、判定基準A(実用性が高い)10剤、B(実用性がある)2剤、C(効果は低い実用性あり)4剤、D(実用性低い)は該当なしであった。 (課題) なし

専 業 名	土壌保全対策技術確立事業		担当室別	環境研究室
実施計画期間	S54年度 ～ 継続		(予算額)	(2,904,000円)
			支出済額	2,461,838円
試 験 研 究 調 査 の 目 的	試 験 研 究 調 査 を 行 う 場 所	試 験 研 究 調 査 の 対 象 ・ 数 量 ・ 範 囲	本 年 度 の 試 験 研 究 調 査 等 の 目 標	試 験 研 究 調 査 の 成 果 ・ 課 題
地球温暖化防止と土壌肥沃度の変化を把握するため、農地に蓄積している炭素・窒素の量とその変化についての調査を行う。	県内16所の水田、畑、果樹園（鳥取、倉吉、米子、湯梨浜、北栄、琴浦、大山、伯耆、南部、日野）	土壌理化学性調査（19項目）、断面調査、アンケート調査	予定調査地点の調査を確実に実施。報告を行った。	（成果） 計画通り調査を実施。
				（課題） 草地の土壌炭素蓄積能力が高いことに着目し、平成22年度より新たに草地を1～2地点、調査対象として追加。
<土壌機能モニタリング調査> 県内耕地土壌の実態調査を行い、土壌管理や土壌改良のための基礎資料とする。	県内10ヶ所の水田、畑（鳥取、岩美、三朝）	土壌理化学性調査（19項目）、断面調査、アンケート調査	予定調査地点の調査を確実に実施。	（成果） 計画通り調査を実施。
				（課題） 水土里情報センターと連携し、センター作成のほ場データと土壌種類データの関連づけを行う。

事業名	湖山池塩分導入に係る水稲への影響に関する試験		担当室別	環境研究室
実施計画期間	H20年度～H22年度		(予算額)	(2,474,000円)
			支出済額	1,551,717円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(補助) 湖山池への塩分導入が試験的に実施され、池周辺農地での塩害が懸念されている。このため、塩分濃度が水稲へ与える影響の確認試験および現地圃場における水稲への影響の把握を行う。	場内 鳥取市瀬地区	103ポット 3ほ場	6 主な事業に関する調べに記載	

事業名	水稲有機栽培技術の調査・技術確立事業		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室	
実施計画期間	H20年度 ～H22年度		(予算額)	(3,591,000)	
			支出済額	1,792,786円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
(単) (委) 1. 水稲有機栽培技術の調査・検証 1) 有機・特別栽培現地実践ほ場の調査・検証	鳥取市 倉吉市 ほか 現地ほ場	有機栽培 7グループ 20ほ場 特別栽培 1グループ 10ほ場	現地の有機先進事例に関して水稲生育・収量・栽培方法、経営状況等の現状と問題点を把握し、解析元となる基礎データを集積する	(成果) 1) H21年作の収量・管理実態と主な収量制限要因が明らかとなった。平均収量はコシヒカリで366kg/10aとなり、慣行栽培の8割弱の水準に達した。また、各農家の収量水準と残草量が深い関係にあることがうかがわれた。 2) コスト削減を目指し大豆粕入米ぬかペレットの施用量低減を検討したところ、80kg/10aでは除草効果の低下が認められたため、従来の100kg/10aが適当と推察された。	
2) 試験場内体系化実証ほ場の調査・検証	場内	17a	現時点で最良な有機栽培技術による試行的実証ほ場を試験場内に設置し検証する	(課題) 1) 引き続き、複数年データの蓄積を要する。 2) 暦日ではなく、雑草生育状況を元にした機械除草の実施時期を明確化する必要がある。	
(単) 2. 有機・特別栽培米の施肥技術の確立 1) 各種有機質肥料の特性把握	場内	11a 室内試験	現地で利用が進む鶏糞等の各種有機質肥料の肥効を把握する	(成果) 1) 発酵程度の違いによる鶏糞の特性を調査したところ、発酵が進むほど速効窒素成分が減少し、C/N比が高まる傾向が認められた。 2) 移植後の積算温度で穂肥時期を判定し施用したところ、実際に稲体の幼穂を確認して施用した場合と収量的な差は認められず、暦日での施用時期判定につながる可能性が示唆された。	
2) 生育診断を取り入れた施肥技術の検討	場内 八頭町 三朝町 日野町	10a 各地点 ほ場1筆 (処理区 8区×2 反復/筆)	稲の生育状況等に合わせて有機質肥料の追肥の時期や量を判定する簡易手法の可能性を探る	3) 地域に適した肥料の種類と施肥時期を判定する基礎的資料として、有機質肥料の分解に影響を与える地温・気温データを場内・現地の4ヶ所で計測し、中間的な解析に供した。	
3) 環境影響の解析	場内	室内試験	有機質肥料の肥効発現に影響する環境条件を把握し、解析元となる基礎データを集積する	(課題) 1) 今年度は醤油粕の肥効も把握したが、さらに多くの有機質資材に関してデータを集積する必要がある。 2) 穂肥の暦日施用の検証が必要である。 3) さらに複数年のデータを蓄積した上で解析を進める必要がある。	

事業名	水稻・大豆の「ゆうきの玉手箱」技術 確立事業		担当室別	有機・特別栽培研究室、作物研究室、環境研究室	
実施計画期間	H21年度 ～H24年度		(予算額) 支出済額	(1,850,000) 984,280円	
試験研究 調査の目的	試験研究調 査を行う場 所	試験研究 調査の 対象・数 量・範囲	本年度の試験研究 調査等の目標		試験研究調査の成果・課題
1. 有機栽培水 稲における除 草法の改善と 新たな問題病 害虫の防除技 術の検討	場内 鳥取市 南部町	12a 30a 20a	6 主な事業に関する調べに記載		
2. 有機栽培大 豆の可能性調 査及び問題点 の把握と対応 技術の抽出	場内 鳥取市 湯梨浜町	11a 20a 20a			
3. 輪作を活用 した雑草・病 害虫防除効果 の可能性と肥 料に頼らない 水稻生産のた めの地力回復 効果等の検討	場内	7a			
4. 各種技術の 組み合わせに よる体系的な 経営評価	場内	室内解析			

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等 特になし

(2) 監査委員事務局に対する要望等 特になし

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等 特になし

(2) 監査委員事務局に対する要望等 特になし

